# はとバス75周年

# 原 点となる歴 史を振り返ります



シャルステンショ 設立は1948年(昭和23年) ペンシャスペー/1940年代~1960年代

その際の趣旨は 「内外人ヲ対象トシテ、内ハ国内観光ニ新時代的ニシテ快適ナサービスヲ供スル・・・、 外ハ国際観光客ニ対シテ本事業ヲ通ジテ、新生平和日本ノ真ノ姿ヲ紹介…

と、戦後復興期の意気込みが込められています。

### 1940年代

- ■1948年(昭和23年)8月
  - ·新日本観光株式会社(旧社名)設立
  - ·資本金2000万円
  - ·事務所所在地は台東区車坂町12番地下鉄ビル内(現在の上野7丁目)



草創期の ガソリン車



▲初代ロゴマーク  $(1948 \sim)$ 

▲二代目ロゴマーク (1950~

▲1951年 東京駅のりば

▲1958年 走るパーラ

- ■1949年(昭和24年)1月
  - ·団体貸切バス第一号車として成田山初詣へ運行
- ■1949年(昭和24年)3月
  - ・女性ガイド第1期5名採用(運行開始5日前の採用だった) ·都内定期観光バス運行開始(半日Aコース)
- ■1949年(昭和24年)7月 ・東京駅降車口および新宿駅構内に案内所を設置

### 1950年代

- ■1950年(昭和25年)3月 ・はとのマークを変更
- ■1951年(昭和26年)4月 ・夜の定期観光バス運行開始
- ■1951年(昭和26年)7月 事務所を千代田区丸ノ内1-1に移転 (鉄道弘済会と共同新築)
- ■1951年(昭和26年)9月 都内一日Cコース運行開始
- ■1952年(昭和27年)9月 ·有楽町案内所を開設
- ■1953年(昭和28年)4月 ・池袋駅と渋谷駅に案内所設置
- ■1953年(昭和28年)6月 ・外国人向けコース本格運行開始(英語)
- ▒1956年(昭和31年)3月 ・資本金4000万円増資により1億円となる
- ■1956年(昭和31年)6月 ・品川車庫内に新設した新社屋へ事務所移転
- ■1958年(昭和33年)4月 ▲東京タワー営業所 ・貸切用豪華バス「走るパーラー」運行開始 ・いすゞ製工アーサスペンション、冷暖房、回転いす付
- ■1958年(昭和33年)12月 ・東京タワー内に案内所を設立

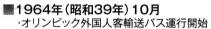
# 1960年代

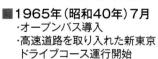
- 1960年(昭和35年)1月 ·夜のお江戸Eコースに吉原松葉屋「おいらんショー」が登場
- ■1962年(昭和37年)1月 ·第1回はとバス社員成人式実施
- ■1962年(昭和37年)11月 ·大阪営業所を大阪市東区本町 大阪会館1階に設置

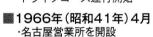


.。 スーパーデラックスバス「月光仮面」

- ■1963年(昭和38年)4月 ・定期観光用スーパーデラックスバス(40人乗り)導入
- ■1963年(昭和38年)8月 ・1億5000万円増資により資本金3億円へ
- ■1963年(昭和38年)9月 ·新日本観光株式会社を株式会社はとバスに社名変更 ·新日本観光株式会社を新たに設置
- ■1964年(昭和39年)7月 ·オリンピック記念コース運行開始
- ■1964年(昭和39年)9月 ·五反田駅案内所を設置





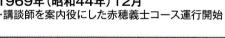


- ■1969年(昭和44年)3月 ・事務所及び車庫を平和島本社へ移転
- ■1969年(昭和44年)12月





▲1965年 「走るパーラ 屋根を取ったオープンバス



## 「はとバス」社名の由来とは

昭和24年、バス車体のシンボルマークに、図案化した「鳩」が描かれまし た。「鳩」は平和、安全、快適のシンボルとされております。また、伝書鳩は、 飛び立ってから無事目的地に着き、そして出発したところへ必ず安全に戻っ てくるということから、「鳩」が選ばれました。翌年には、より鳩らしい新マー クに改定され、新日本観光株式会社という社名でありながら、「はとバス」と いう愛称で親しまれるようになりました。昭和38年(創立から15年目)9月 1日からは、社名そのものを「株式会社はとバス」に改めています。

はとバス」& や我 晴らしきか 5 が p 二鳩友会 本田 a r e 浩 n

t

記

、れた経 が自然と湧 に思いを る故 少期 験を振り 、前を 自 郷 馳 絆を を 両 せ 親 成 返

ノランド 尊敬の念が止みません。桜 光運 心に止まる平 となれば幸いです ます。 より 一号ボンネットバス「富 行開始75年です。 諸先輩方のそのご 先見の明と固 光バスが走ることは 特別な3月 特集は忘れえぬ定期 復興のため 10 ル思い出 年先輩になりま -和の鳩、 19 す黄 い決意と 観光が 戦 日 ご努力 東京 後荒 色

f

u

号を発刊しました。

震の被害を教

訓に防災

を高

めることを

しまし

心よりお見舞い申

身の会員も

(Destroy)